

令和4年度取組状況

ものづくり工学科 一般科目(保健体育)

(職)助教(氏名)坂本宗司

取組状況	
教育	<p>①各回グループワークやディスカッションを実践し、学生同士がコミュニケーションを取る機会を増やし、コロナ禍における中でのコミュニケーションの方策を模索し学生が主体性を持って授業に取り組む環境の構築を図った。具体的な方策として、「取組確認票」を導入し、自己評価をさせることでより自身の取り組みを意識することで主体性の向上を図った。</p> <p>②コロナ禍での対面実技授業という難しい状況の中、授業内での感染者を出すことなく、安全面に配慮し授業運営を行うことができた。</p> <p>③長距離走において毎週の記録データを可視化しフィードバックを行った。具体的には自己最高記録、個人平均、クラス平均結果などを明示することにより、学生の目的意識や意欲の向上を図り、多くの学生においてタイム向上の成果がみられた。</p>
研究	<p>①視覚障がい者に対する全身振動刺激トレーニングがステップ動作に及ぼす影響に関する事例的研究 小林法爾実,大嶽真人,坂本宗司,伊佐野龍司:教師教育と実践知:第7巻, pp25-34</p> <p>②安全に配慮し、授業内において体力テストを実施し、低学年(1-3年生)におけるデータ抽出を行なった。収集したデータを元に本校学生の体力について縦断的な検討を行い、学生の健康について継続的に検証中。学生の体力と健康の相関や学力との相関について検証中。</p>
社会貢献	<p>①来年度のOPCにおける活動の検討及び計画の精査を行い、来年度8月開講予定の企画についての打ち合わせをするとともに運営方法の確認を行った。</p> <p>②コロナ禍にあり本校体育施設開放を広く行うことはできなかったが、日々施設の点検に努め、安全性を担保する活動を行なった。来年度からは段階的に施設の開放を行い、地域交流を図るとともに開けた高専を発進していく。具体的には川淵三郎杯招致、荒川区サッカー協会との連携等。</p> <p>③発達に凹凸があることも達への運動学習支援活動「footism」において講師を務め、運動を通じた発育発達の教育的活動を行った。また、限られた人数ではあったが、小中高生を対象としてスポーツ教室においてサッカーの指導を行った。</p>